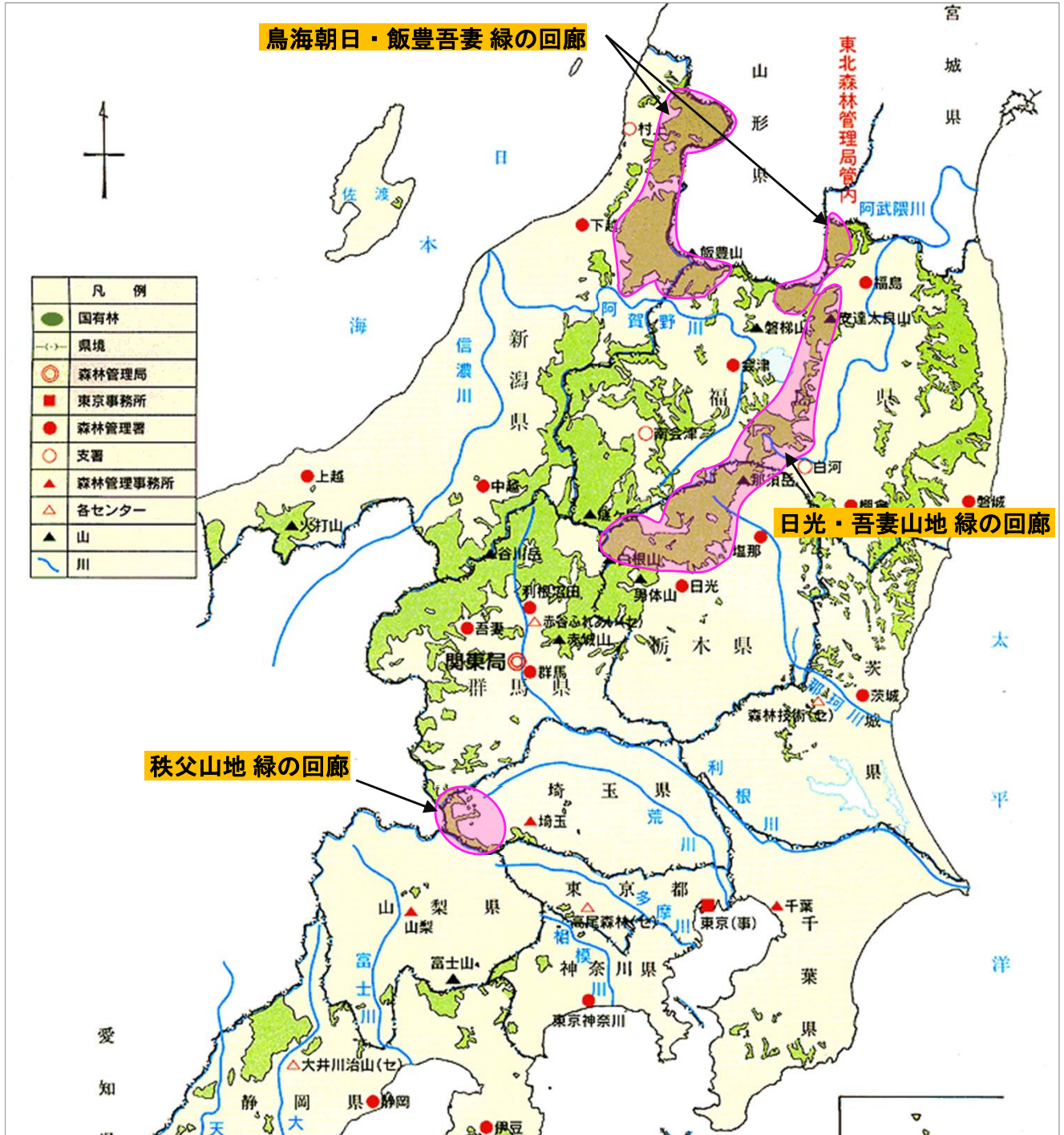


# 平成30年度 緑の回廊モニタリング調査結果




緑の回廊 位置図



総括整理表

緑の回廊名	鳥海朝日・飯豊吾妻 緑の回廊		写真1 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID :70424 (ダケカンバ林) 阿武隈川森林計画区 2012/9/20撮影		写真2 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID:70425 (ブナ林) 阿武隈川森林計画区 2012/8/28撮影		写真3 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID :150758 (スギ林) 阿武隈川森林計画区 2012/8/15撮影
管轄森林管理局・署名	下越森林管理署村上支署、福島森林管理署						
所在地	山形県・新潟県境(朝日山地～飯豊山)、山形県・福島県境(吾妻山～宮城県境)						
面積	12,254.1 ha						
設定・変更年	2003年(H15)						

緑の回廊概況写真		緑の回廊の概要等		過去のモニタリング実施概況	
	緑の回廊の概要 (設定目的)	鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊は、野生動物の保護、遺伝資源の保存等を目的に設定された。朝日山地森林生態系保護地域、飯豊山周辺森林生態系保護地域、吾妻山周辺森林生態系保護地域を繋いでおり、回廊の長さは約72kmにわたり、面積にすると12,254haとなる。(東北森林管理局管内である奥羽山脈緑の回廊も含めると、距離は約260kmとなる。)天然のブナが林地の6割を占め、その他、アカマツ、その他広葉樹、ヒメコマツ等が主に分布する。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	<p><b>○森林生態系多様性基礎調査</b> 阿武隈川森林計画区:2012年調査(第3期) 3点を確認。 下越森林計画区:2012年調査(第3期) 4点を確認。</p> <p><b>○樹木の生育状況</b> 森林生態系多様性基礎調査では、回廊内に10地点の調査報告があるが、悪路に伴う調査未実施等が3地点あり、7地点のデータを確認した。7地点のうち、5地点はブナ林で調査され、残り2地点は、ダケカンバ林とスギ林で調査されている。</p> <p><b>○病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況</b> 森林生態系多様性基礎調査7地点のうち、3地点では雪害の発生が確認されている(標高250mから580m、斜面方位はN～NW、3地点とも下越森林計画区)。また、7地点のうち3地点にはツキノワグマやニホンカモシカの剥皮、その他ノネズミの痕跡が確認されているが、ニホンジカによる被害は確認されていない。</p>
	モニタリング実施間隔	10年			
	法令等に基づく指定概況	保安林(水源涵養・雪崩・土砂崩壊・土砂流防)、土砂流出防備保安林見込み地、砂防指定地、国立公園/第1種特別地域、国立公園/第2種特別地域、国立公園/第3種特別地域、国立公園/特別保護地区、国立公園/普通地域		実施時期・回数	緑の回廊モニタリング調査(2003年(H15)、2013年(H25)) 森林生態系多様性基礎調査

森林生態系多様性基礎調査 格子点ID :70424(ダケカンバ林) 阿武隈川森林計画区 2012/9/20撮影


調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	聞き取り調査/資料調査	森林面積は回廊の全面積12,254.1haの約96%である10,216.1ha、そのうち天然生林は9,247.3ha(約91%)、複層林513.2ha(約5%)、単層林455.6ha(約4%)である。森林の機能類型は、水源涵養タイプ4,742.7ha(約46%)、自然維持タイプ4,716.6ha(約46%)、土砂流出・崩壊防備エリア756.8ha(約7%)である。(林地面積10,216.1haを100%として集計)
樹木の生育状況	聞き取り調査/資料調査	森林簿を基にした林小班単位の主要林分(林相)は、広葉樹林9,273.94ha(約91%)、次いで針広混交林542.57ha(約5%)、針葉樹林が399.62ha(約4%)である。(林地面積を集計) 林小班単位の林地面積から、主要な構成樹種をみると、ブナが最も多く6,187ha(約61%)、次いでアカマツ972ha(約10%)、その他広葉樹899ha(約9%)と続く。天然生林のみで見ると、ブナが最も多く6,184ha(約67%)、その他広葉樹899ha(約10%)、アカマツ690ha(約8%)、ヒメコマツ587ha(約6%)、ミズナラ326ha(約4%)、ネズコ130ha(約1%)と続く。(天然生林9,247.3haを100%として集計) 天然生林の大部分を占めるブナは、林齢120～129が最も広く分布し約3,145haである。森林生態系多様性基礎調査では、回廊内に10地点の調査報告があるが、悪路に伴う調査未実施等が3地点あり、7地点のデータを確認した。7地点のうち、5地点はブナ林で調査され、残り2地点は、ダケカンバ林とスギ林で調査されている(写真1、2、3)。
林床植生の生育状況	聞き取り調査/資料調査	自然環境保全基礎調査[環境省]によると、当回廊の西側に位置する下越森林管理署村上支署管轄区域では、主にチシマザサ-ブナ群団、自然低木群落分布している。チシマザサ-ブナ群団は、特に朝日山地森林生態系保護地域に接する北部に広く分布し、下層植生にはヒメモチ、ハイヌガヤ、ユキツバキ、ハイヌツゲ等が生育する。自然低木群落の下層植生にはアカソ、クロバナヒキオコシ、トリアシヨウマ、ゼンマイ、スミレサイシン等が生育している。なお、飯豊山森林生態系保護地域に接する南部では、ウラジロヨウラク-ミヤマナラ群団が低木群落として分布する。下層植生にはチシマザサ、アカミノイヌツゲ等が生育し、飯豊山森林生態系保護地域へと続いている。当回廊の東側に位置する福島森林管理署管轄区域では、主にチシマザサ-ブナ群団、ブナ-ミズナラ群落分布している。チシマザサ-ブナ群団の下層植生には、尾根筋にイワウチワ、中腹上部ではヒメモチ、下部でヒメアオキ、ハイヌガヤ、また、テラス(段丘)ではオクノカンスゲが生育する。ブナ-ミズナラ群落の下層植生にはガマズミ、ハイヌガヤ、ヒメアオキ、イヌツゲ、ミヤマカンスゲなどが生育する。また、部分的にアスナロ群落分布し、下層植生にはアスナロ、ムラサキヤシオツツジ、コヨウラクツツジ、アズマシャクナゲ等が生育する。
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況	聞き取り調査/資料調査	森林生態系多様性基礎調査7地点のうち、3地点では雪害の発生が確認されている(標高250mから580m、斜面方位はN～NW、3地点とも下越森林計画区)。また、7地点のうち3地点にはツキノワグマやニホンカモシカの剥皮、その他ノネズミの痕跡が確認されているが、ニホンジカによる被害は確認されていない。
野生動物の生育状況	聞き取り調査/資料調査	ツキノワグマ、ニホンジカ、ニホンカモシカ、イノシシ、ニホンザル等が生息する。
普及・啓発の実績	聞き取り調査/資料調査	特になし
巡視の実施状況	聞き取り調査/資料調査	特に緑の回廊を目的とした巡視は実施しておらず、森林官が通常業務の中で回廊区域に立ち寄れば巡視をしている。(福島森林管理署、下越森林管理署村上支署)年に数回巡視を実施、国有林林道はなく国土交通省の砂防堰堤維持管理用道路貸付あり、東北電力送電線巡視路も利用、被害の報告はない。(福島森林管理署)
森林環境教育の場としての利用状況	聞き取り調査/資料調査	吾妻山周辺森林生態系保護地域(阿武隈川森林計画区)内の浄土平周辺をトレッキングする「沼吾妻連峰ウォークラリー(主催:浄土平周辺観光推進連絡会)」が毎年開催されており、2018年開催で第52回目を迎えた。

評価・課題等	確認できた影響:[-] (調査間隔は10年) 当回廊については、病虫害や深刻な鳥獣害が発生しておらず、健全な状態が維持されている。
--------	--



総括整理表

緑の回廊名	日光・吾妻山地 緑の回廊		写真1 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID:90193 (カラマツ林) 那珂川森林計画区 2013/9/13撮影		写真2 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID:90168 (コナラ林) 鬼怒川森林計画区 2011/9/28撮影		写真3 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID:90059 (ミズナラ林) 鬼怒川森林計画区 2011/9/9撮影
管轄森林管理局・署名	福島森林管理署、福島森林管理署白河支署、塩那森林管理署、日光森林管理署						
所在地	栃木県西部(那須、高原、日光)～福島県北部(吾妻山地周辺)						
面積	93.934.4 ha						
設定・変更年	2010年(H22)						

緑の回廊概況写真		緑の回廊の概要等		過去のモニタリング実施概況	
	緑の回廊の概要 (設定目的)	日光・吾妻山地緑の回廊は、栃木県の西部に連なる3つの火山(那須、高原、日光)から福島県北部の吾妻山地周辺までを結ぶもので、里山近接地を含めて設定されている。緑の回廊日光線から、唐沢コメツガ希少個体群保護林、尚仁沢生物群集保護林、高原山イラモミ希少個体群保護林、大佐飛山地生物群集保護林、流石山・大峠ミヤマナラ希少個体群保護林、甲子・二岐周辺生物群集保護林、滝サワラ希少個体群保護林、八幡岳ブナ・ミズナラ希少個体群保護林、深沢ヒノキアスナロ希少個体群保護林を結び、吾妻山周辺森林生態系保護地域をつないでいる。回廊の長さは約180kmにわたり、面積にすると93,934.4 haとなる。		結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	○森林生態系多様性基礎調査 阿武隈川森林計画区:2012年(第3期) 22点確認。 鬼怒川森林計画区:2012年(第3期) 28点確認。 那珂川森林計画区:2012年(第3期) 11点確認。他2点については会津森林計画区の範囲内。 ○樹木の生育状況 森林生態系多様性基礎調査では、回廊内に65地点の調査報告があるが、悪路に伴う調査未実施等が2地点あり、63地点のデータを確認した。63地点のうち、最も多くの調査されているのはミズナラ林(10地点)、次に多いのはブナ林、カラマツ林(共に9地点)、その他イヌブナ林、スギ林、アカマツ林等で調査がされている。 ○病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況 森林生態系多様性基礎調査の調査地63地点の鳥獣害の発生状況は、ニホンジカについては24地点、ツキノワグマについて5地点で確認されている。また病虫害については、マツ枯れが2地点で確認されており、気象害については、雪害が5地点、風害が3地点、落雷が1地点で確認されている。鬼怒川森林計画区内にてニホンジカによる被害が確認されている。
	モニタリング実施間隔	10年			
	法令等に基づく指定概況	保安林(干害、水源涵養、土砂崩壊、土砂流防、保健)、水源涵養保安林見込み地、土砂崩壊防備保安林見込み地、土砂流出防備保安林見込み地、保健保安林見込み地、国立公園/第1種特別地域、国立公園/第2種特別地域、国立公園/第3種特別地域、国立公園/特別保護地区、国立公園/普通地域、砂防指定地、鳥獣保護区、県指定天然記念物(安達太良山ヤエハクサンシャクナゲ)			

森林生態系多様性基礎調査 格子点ID:70296(ブナ林)阿武隈川森林計画区 2013/8/24撮影

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	聞き取り調査/資料調査	森林面積は回廊の全面積93,934.4haの約96%である90,062.0ha、そのうち天然生林は57,665.6ha(約64%)、単層林24,795.9ha(約28%)、複層林7,600.5ha(約8%)である。森林の機能類型は、水源涵養タイプ60,087.8ha(約67%)、土砂流出・崩壊防備エリア13,591.1ha(15%)、森林空間利用タイプ11,303.9ha(約13%)、自然維持タイプ5,079.2ha(約6%)、である。(森林面積90,062haを100%として集計)
樹木の生育状況	聞き取り調査/資料調査	森林簿を基にした林小班単位的主要林分(林相)は、広葉樹林48,768.9ha(約54%)、次いで針葉樹林が24,369.0ha(約27%)、針広混交林16,903.8ha(約19%)である。(林地面積を集計)林小班的林地面積から、主要な構成樹種をみると、スギが最も多く12,292.8ha(約14%)、次いでブナ11,261.9ha(約13%)、アカマツ9,853.1ha(約11%)である。天然生林のみでみると、ブナが最も多く10,843.4ha、モミ8,260.4ha、その他広葉樹6,054.3ha、アカマツ5,137.8ha、ヒバ4,928.5ha、クリ3,604.6haである。大部分を占める天然林ブナの林齢は、100～109が最も広く分布し約6,751haである。森林生態系多様性基礎調査では、回廊内に65地点の調査報告があるが、悪路に伴う調査未実施等が2地点あり、63地点のデータを確認した。63地点のうち、最も多くの調査されているのはミズナラ林(10地点)、次に多いのはブナ林、カラマツ林(共に9地点)、その他イヌブナ林、スギ林、アカマツ林等で調査がされている。
林床植生の生育状況	聞き取り調査/資料調査	自然環境保全基礎調査[環境省]によると、当回廊の北側に位置する福島森林管理署管轄区域では、高標高地である吾妻山周辺森林生態系保護地域の周囲にクロベ-ヒメコマツ群落、イタドリ-コメススキ群落、高山ハイデ及び風衝草原、カスミザクラ-コナラ群落、ササ自然草原、ススキ群団が分布している。クロベ-ヒメコマツ群落の下層植生にはアズマシャクナゲ、ムラサキヤシオツツジ、ココウラクツツジ等ツツジ科の低木が生育する。イタドリ-コメススキ群落の下層植生にはススキ、ガンコウラン、ミネヤナギ等が生育する。高山ハイデ及び風衝草原にはイワオウギ、ムカゴトランオ、オヤマノエンドウ等が生育する。カスミザクラ-コナラ群落の下層植生にはチシマザサ、ハイイヌガヤ、ヒメアオキ、ミヤマカンスゲ、イヌツゲ等が生育する。ササ自然草原にはチシマザサが生育する。ススキ群団はススキ、コンノホンモンジスゲ、クサボタン等が生育する。福島森林管理署白河支署管轄区域では、主にチシマザサ-ブナ群団が分布し、部分的に落葉針葉樹植林が分布する。チシマザサ-ブナ群団の下層植生には、尾根筋にイワウチワ、中腹上部にヒメモチ、下部にヒメアオキ、ハイイヌガヤ、また、テラス(段丘)ではオクノカンスゲが生育する。落葉針葉樹植林の下層植生にはススキ、チマキザサ、クマイチゴ等が生育する。塩那森林管理署管轄区域では、主にブナ-チシマザサ群落が多く分布する。ブナ-チシマザサ群落の下層植生にはオクノカンスゲ、ヤマソテツ、マイズルソウ、シノブカグマ等が生育する。また、甲子・二岐生物群集保護林(赤面山側)の南部にダケカンバ-ササ群落、イタドリ-コメススキ群落が分布し、風衝地ではハイマツ-コケモモ群集が分布する。ダケカンバ-ササ群落の下層植生にはミヤコザサ等が生育する。イタドリ-コメススキ群落の下層植生にはコメススキ、ガンコウラン、ウラジロタデ等が生育する。ハイマツ-コケモモ群集の下層植生にはコメススキ、ヒメスゲ等が生育する。日光森林管理署管轄区域では、主にブナ-ミズナラ群落、クリ-ミズナラ群落、ブナ-ミヤコザサ群集、ブナ-チシマザサ群落、オオシラビソ群集が分布する。ブナ-ミズナラ群落の低木層にはアカヤシオ、シロヤシオ、ムラサキヤシオツツジ、トウゴクミツバツツジ等が生育し、クリ-ミズナラ群落は、リュウブ、コシアブラ、ウリハダカエデ等のカエデ類が生育する。ブナ-ミヤコザサ群落の下層植生にはミヤマカンスゲ、シシガシラ等が生育する。ブナ-チシマザサ群落の下層植生にはオクノカンスゲ、ヤマソテツ、マイズルソウ、シノブカグマ等が生育する。オオシラビソ群集の下層植生にはオクノカンスゲ、ホソバノウゲシバ等が生育する。森林生態系多様性基礎調査が実施された63地点では、低木層の植被率が10%未満の28地点のうち20地点(約71%)でニホンジカの被害を確認している。草本層の植被率は、植被率10%未満の9地点うち4地点(約44%)でニホンジカの被害を確認している。福島県側にニホンジカ被害が確認されていないこと、栃木県の特に出光市周辺にてニホンジカ被害が確認されている。
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況	聞き取り調査/資料調査	森林生態系多様性基礎調査の調査地63地点の鳥獣害の発生状況は、ニホンジカについては24地点、ツキノワグマについて5地点で確認されている。また病虫害については、マツ枯れが2地点で確認されており、気象害については、雪害が5地点、風害が3地点、落雷が1地点で確認されている。日光森林管理署では、ほとんどが天然林であるため一部に剥皮等は見受けられるものの、獣害についての詳細は把握していない、また対策については実施していないとしている。
野生生物の生息状況	聞き取り調査/資料調査	ニホンジカの他、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、イノシシ、ニホンザル等が生息する。今後さらにニホンジカが増えた場合、天然林内も倒木等により生じたギャップがそのまま無立木地化する事が懸念されるとしている。(日光森林管理署)
普及・啓蒙の実績	聞き取り調査/資料調査	署主催・幕滝自然観察会の樹木観察で森林環境の重要性を啓蒙・普及している。毎回15～20名の参加者がある。従来から、温泉旅館・道の駅等で自然愛護の啓蒙活動を実施している。(福島森林管理署)森林保護員は巡視と併せて入林者へのマナー等に関する指導も行い、森林保護への普及啓蒙活動を行う。(塩那森林管理署)
巡視の実施状況	聞き取り調査/資料調査	特に緑の回廊を目的とした巡視は実施しておらず、森林官が通常業務の中で回廊区域に立ち寄れば巡視をしている。(福島森林管理署、福島森林管理署白河支署、日光森林管理署)地域連携推進等対策実施事業により、那須岳周辺国有林において森林保護員による植生荒廃の防止を目的とした巡視を行い、保護管理活動を実施している。(塩那森林管理署)
森林環境教育の場としての利用状況	聞き取り調査/資料調査	署主催の行事はないが、日帰り登山コースも多くあるので小学生等の登山姿も時折見かける。(福島森林管理署)
その他、外来種対策等	聞き取り調査/資料調査	外来種対策として、隣接する貸与地や民有地ではオオハンゴンソウなどを除去しているが、回廊内では実施していない。(日光森林管理署)

評価・課題等	確認できた影響:[ア]野生鳥獣(調査間隔は10年) 森林生態系多様性基礎調査データを用いた分析では、阿武隈川森林計画区から鬼怒川森林計画区までの約180kmに及ぶ本回廊において、阿武隈川森林計画区は健全であるものの、鬼怒川森林計画区では、ニホンジカの植生被害が発生していることから、定期的なモニタリングに加え、被害状況に注意が必要である。
--------	--



総括整理表

緑の回廊名	秩父山地緑の回廊		写真1 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID: 110001 (コメツガ林) 2015/06/17撮影		写真2 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID: 110001 (コメツガ林) 2015/06/17撮影 (日照条件は良好であるが、バイケイソウ以外の下層植生はほとんど無い)		写真3 森林生態系多様性基礎調査 格子点ID: 110001 (コメツガ林) 2015/06/17撮影	
管轄森林管理局・署名	埼玉森林管理事務所							
所在地	埼玉県東部 秩父市大滝 大滝奥国有林外							
面積	6,453.35 ha							
設定・変更年	2003年(H15)							
緑の回廊概況写真		緑の回廊の概要等			過去のモニタリング実施概況			
		<p>緑の回廊の概要 (設定目的)</p> <p>秩父山地緑の回廊は、埼玉県東部である秩父市大滝 大滝奥国有林外に位置し、千曲川、笛吹川、荒川の分水嶺である甲武信ヶ岳を中心に、北は倉門山、南は雲取山へ至る稜線に設定されている。秩父山地生物群集保護林を中心に稜線に沿って繋がっており、回廊の長さは約44kmである。回路の北部には群馬県に位置する天丸山ヒノキ・ハコネコメツツジ希少個体群保護林が接している。景観に優れ、貴重な野生動物植物が生育する豊かな森林生態系を維持しているが、近年、ニホンジカによる影響は拡大傾向にあり深刻な問題になっている。天然のヒノキ林が林地の大部分を占め、その他シラビソ、ウラジロモミ、コメツガ、カラマツ等が主に分布する。</p>			<p>結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)</p> <p>○森林生態系多様性基礎調査 2010年(第3期) 2点確認。</p> <p>○樹木の生育状況 森林生態系多様性基礎調査では、回廊内に3地点の調査報告があるが、悪路に伴う調査未実施が1地点あり、2地点のデータを確認した。2地点ともコメツガ林で調査が実施されており、調査未実施である1点についても過去の調査ではコメツガ林で調査を実施している。</p> <p>○病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況 森林生態系多様性基礎調査の調査地2地点では、ニホンジカによる剥皮、下層植生への被害が確認されている。</p>			
		モニタリング実施間隔	10年					
		法令等に基づく指定概況	保安林(水源涵養・保健)、国立公園/第1種特別地域、国立公園/第2種特別地域、国立公園/第3種特別地域、国立公園/特別保護地区、鳥獣保護区			実施時期・回数	緑の回廊モニタリング調査(2003年(H15)) 森林生態系多様性基礎調査	

森林生態系多様性基礎調査 格子点ID:110001(コメツガ林) 2015/06/17撮影

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	聞き取り調査/資料調査	森林面積は回廊の全面積6,453.35haの96%である6,220.22ha、そのうち天然生林は5,081ha(82%)、人工林875ha(14%)、育成天然林264ha(4%)である。森林の機能類型は、自然維持タイプ4,311.3ha(約70%)、水源涵養タイプ1,356ha(約20%)、土砂流出・崩壊防備エリア552ha(約10%)である。(林地面積6,220.22haを100%として集計) ※秩父山地緑の回廊外であるが、回廊の北部に東京大学演習林が隣接する。埼玉県秩父市に属し、秩父多摩甲斐国立公園内に位置する。演習林全体の林地面積は約5,800ha。
樹木の生育状況	聞き取り調査/資料調査	森林簿を基にした林小班単位の主要林分は、針葉樹林が2,827ha(46%)を占め、次いで針広混交林2,666ha(43%)、広葉樹林727ha(12%)である。(林地面積を集計) 林小班の林地面積から、主要な構成樹種をみると、ヒノキが最も多く4,484ha(72%)、次いでカラマツ625ha(10%)、シラビソ394ha(6%)となる。天然林のみで見ると、ヒノキ4,064ha、シラビソ394ha、その他広葉樹332ha、ウラジロモミ137ha、コメツガ54haカラマツ44haとなる。大部分を占める天然林ヒノキの林齢は、190~200が最も広く分布し約3,767haである。森林生態系多様性基礎調査ではニホンジカによる剥皮を確認している。なお、回廊の南部に位置する甲武信ヶ岳から雁坂峠にかけての県境(国有林境)には、大規模なシラビソの縞枯れがみられる。
林床植生の生育状況	聞き取り調査/資料調査	4~5年前に緑の回廊内のほぼ全域において、森林内に自生していた笹が一斉に開花し、その後、枯死した。現在も枯死したままの状態であるが、ニホンジカによる食圧が高まっている中で、元の植生に戻ることができるのか、今後の経過に注意が必要である。森林生態系多様性基礎調査における調査点ID110001では、草本層がニホンジカの嗜好植物であるヤマトリカブトやバイケイソウが優占し、他の植生がほとんど見られないといったニホンジカによる食害の影響が表れている。(写真2) 自然環境保全基礎調査[環境省]によると、広く分布するブナ-スズタケ群集の下層植生には、スズタケやオクモミジハグマ等が生育し、湿潤地においてはコナラやミヤマクマワラビ等が生育する。同様に広く分布するカラマツ植林の下層植生には垂高山帯のミヤコザサ型、冷温帯のスズタケ型が生育し、ツガ-コナラ群集の下層植生にはシノブやフクロシダが生育する。なお、伐跡群落の下層植生にはススキやノギリヤス等が生育する。その他、ミズナラ-クリ群落の下層植生にはチゴユリ、オクモミジハグマ等、コメツガ群落の下層植生にはミヤコザサやスズタケが生育するササ型、シノブカグマ、ミヤマワラビが生育するシダ型があり、ダケカンバ-ササ群落の下層植生はスズタケ型、ミヤコザサ型に分類できるが、ササ以外の植生の被度は低い。ミヤコザサ群落にはヘビノネゴザ、アカシウマ等が生育し、部分的に分布するミヤマクマワラビ-シオジ群集の下層植生にはミヤマイラクサ、イヌワラビ等が生育する。
病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況	聞き取り調査/資料調査	ニホンジカの生息密度が高まり、極めて深刻な食害による更新阻害、及び樹木の枯損等が生じている。森林生態系多様性基礎調査の調査地2点(平成27年調査)では、ニホンジカによる下層植生、低木層へ食圧が確認されている。埼玉県森林管理事務所では、平成26、27年度に緑の回廊内、十文字峠付近の国有林で、野生鳥獣被害対策事業(平成26年度に単木保護、平成27年度に防護柵設置)を実施し、コメツガ、トウヒ等の稚樹等後継樹の保護を行っている。埼玉県が実施する「ニホンジカ高標高地域捕獲業務」により、雁坂・十文字エリア内において年間180頭程度の管理捕獲を行っている。
野生物の生息状況	聞き取り調査/資料調査	ニホンジカの他、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、イノシシ等が生息する。ニホンジカの生息密度は平成27年度時点で、秩父山地緑の回廊を含む秩父地域のうち、都県境から山麓にかけての15メッシュ※では、5頭/km2以上、最大13.52 km2と推定されている。(第二次埼玉県第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ)(平成29年度~平成33年度)参照) ※…メッシュは標準地域メッシュシステムの第二次地域区画を4等分したもので、縦横約5×5kmの区画。
普及・啓発の実績	聞き取り調査/資料調査	平成14年から平成18年にかけて、NPO法人秩父の環境を考える会と埼玉森林管理事務所が共同で秩父山地緑の回廊踏査を実施し、回廊内の植生調査等を行っている。また、埼玉森林管理事務所では、平成20年から毎年、緑の回廊内の笠取山周辺の国有林において、ボランティアによる樹木保護ネット設置事業を実施している。回廊内の樹木保護作業を通じ、森林の被害被害の現状把握及び森林保護の重要性についての普及啓発を行っている。この事業は昨年で10回を数え、毎回30名程度の参加者がある。(埼玉森林管理事務所)
巡視の実施状況	聞き取り調査/資料調査	月2~3回程度の巡視を実施。主な巡視点は、鳥獣被害状況の確認、回廊内の設置看板等の点検、林道点検、森林内の下層植生等の観察である。緑の回廊内に設置している単木保護ネットや防護柵の点検修繕も合わせて行っている。年2回程度山小屋の巡視の際に回廊内を縦走しながら巡視も行っている。(埼玉森林管理事務所)
森林環境教育の場としての利用状況 学術論文	聞き取り調査/資料調査	特になし

評価・課題等	<p>確認できた影響:[ア]野生鳥獣(調査間隔は10年)</p> <p>森林生態系多様性基礎調査の結果からはニホンジカによる影響が下層植生に顕著に表れている。また、埼玉森林管理事務所から聞き取り調査では、4~5年前に緑の回廊内のほぼ全域において、森林内に自生していた笹が一斉に開花し、その後、枯死したことが報告されており、ニホンジカの食害も確認されていることから、今後の経過に注意が必要である。</p> <p>また、本回廊の南部に位置する甲武信ヶ岳から雁坂峠にかけての県境(国有林境)に確認されている大規模なシラビソの縞枯れについてもニホンジカの影響とあわせて経過観察が必要である。</p>
--------	---